

第21回 中野のちがひ



国境を越え、日本の震災被害に心を痛め被災した写真を洗浄して被災者の思い出や記憶をよみがえらせた留学生のちがひ

モウオクナン 孟憶南 さん
東京工芸大学大学院 芸術学研究科
メディアアート専攻 写真メディア領域2年生
昭和61年(1986年)生まれ

中野の好きなところ

中野駅前の商店街が好きです。特にカメラ店にはよく通っています



被災写真の洗浄を始めたきっかけ

3月11日は、ちょうど春休みで帰郷していて、中国の青島で東日本大震災の情報を聞きました。テレビのニュースを見てその光景にとってもショックを受けました。

3月15日に日本へ戻りましたが、僕の乗った飛行機の乗客はたったの5人。日本に着いても空港では原発事故の影響なのか、みんなマスクを着けていて、厳しい状況だと感じたのを覚えています。

東京でも水や食料が不足していて、テレビを持たない僕にとって、情報の入らない不安な生活が何日も続きました。

9月頃、通っている大学で被災地から集められた写真を洗浄するボランティアを募集していることを知りました。震災の光景を見て以来、何か自分ができることがあれば助けになりたいと思っていたので、募集の説明会に参加しました。

そして、毎週木・土曜日の決まった時間に、洗浄専用ス



▲説明会で手順の解説を受ける学生たち

どうやって被災写真を洗浄したのですか

宮城県名取市から大学に届いた写真は、津波などにより泥や油で汚れているので、特製の処理液の中で丁寧に洗浄します。やさしく扱わないと、写真の一部が破れたり、表面の層が剥がれたりしてしまいます。綺麗になったら写真用の乾燥機を使って良く乾かし、見やすいようにアルバムに収めていくという作業でした。傷みが激しく洗浄が難しい写真もありましたが、大体4割



▲学校に届いた洗浄前の写真



▲丁寧に泥や汚れを落とす

ります。ですが、どんな仕事に就いても写真は撮り続けていきたいです。いつかは社会を映し出すような写真を撮りたいですね。

宮城県名取市から大学に届いた写真は、津波などにより泥や油で汚れているので、特製の処理液の中で丁寧に洗浄します。やさしく扱わないと、写真の一部が破れたり、表面の層が剥がれたりしてしまいます。綺麗になったら写真用の乾燥機を使って良く乾かし、見やすいようにアルバムに収めていくという作業でした。傷みが激しく洗浄が難しい写真もありましたが、大体4割

さら割くらい、数にして約1万枚の写真を洗浄し、名取市へお返ししました。

この活動に参加して良かったと思うことは人の助けになれたことはもちろん、写真を洗浄することで、人の思い出をもよみがえらせることができたと感じます。

中には、出征する青年とその家族が写っている、戦時中のモノクロ写真なども。胸がつまる思いで、本当に大事に大事に洗浄処理をしました。

毎年欠かさず僕の誕生日に写真を撮ってくれる父が、「40〜50年経ってこの写真を見たら、毎年撮り続けた意味が分かるよ」と言っていました。この活動を通して、写真には、それぞれの記憶や思い出、歴史がたくさん刻み込まれていることがよく分かりました。

また、中国人の僕にとって、写真に写し出された日本の暮らしの風景を見ることで、日本文化を知ることができ、楽しい一面もありました。

今後、どのような活動をしていきたいですか

写真の洗浄に限らず、被災した現地のボランティアにも行きたいです。今回の写真がみなさんの手元に戻り、喜んでもらえるかどうかも気になるので確かめたいところです。

もちろん、これからも被災写真の洗浄活動があれば参加していきたいです。

僕は中国の大学で日本語を勉強していました。1年生の時に父からデジタルカメラをもらい、独学で写真の勉強を始めましたが、大学卒業後、本学の大学院に入り本格的に取り組み始めました。

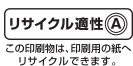
来春には卒業して中国に戻りますが、どんな仕事に就いても写真は撮り続けていきたいです。いつかは社会を映し出すような写真を撮りたいですね。

世帯と人口 12月1日現在。()内は前月比

	世帯数	人口(人)			合計
		男	女	小計	
住民登録	177,068 (259減)	150,154 (150減)	148,554 (133減)	298,708 (283減)	310,109 (464減)
外国人登録	7,653 (152減)	5,474 (81減)	5,927 (100減)	11,401 (181減)	

次号予告

〈特集〉
中野のあゆみ
☆1月1日発行



日本製紙「リサイクル上質70」を使用しています。この紙の古紙パルプ配合率については、製紙会社の出庫証明書により、確認済みです。

『なかの区報』は、区内各家庭の郵便受けなどに配布しています。